

<参考資料：米投資ファンド ソーシャルスタート社ファウンダー ウィリアム ローズ氏インタビュー>

Emotion Intelligence 株式会社

Q1. 今回なぜ Emotion Intelligence 株式会社に投資されたのですか？

A1. まずは、私たちが投資するカテゴリのひとつに当てはまったことです。

第二に、Emotion Intelligence という名称に感動しました。ぜひ登録商標をとるべきですね。知能指数、IQ は、工業革命において非常に重要なものでした。当時は特許やノウハウが非常に重要でした。しかし今、世界はソーシャル時代に突入しており、そこでは「感情」が非常に重要です。

また、CEO も素晴らしい。私たちは、アメリカの会社、あるいはアメリカに来ようとしている会社に投資します。ですから、CEO がアメリカで成功するビジネスパーソンであるかを考慮しなくてはなりません。アメリカでは、知的好奇心と性格的にオープンであること、もしくは CEO 個人の"Emotion Intelligence"が、成功するためのキーになります。サービスそれ自体も非常に魅力的だと思います。

Q2. ZenClerk というサービスをアメリカの市場から見て、どう思いますか？

A2. ユーザーの行動から、次にどのような行動をするかを予測できる彼らの技術には何兆円もの価値になりえます。今、彼らには、「本当に今の取り組みを成長させ、さらに拡張させることができるか？」「現在の優位性をさらに広げていけるか？」ということが問われています。そしてそれをサービス化して、企業体として確立していく。投資家としては、いち早く次のフェーズに進んでもらうことをサポートしたいと思っています。ZenClerk は正直に言ってとてもクールだと思います。

Q3. 感情を理解する人工知能、Emotion I/O についてですが、これは本来機械が苦手としていた人間の感情を扱うということを主目的としています。将来 Emotion I/O が成長したら、世界はどう変わると思いますか？

A3. 人類歴史上、産業革命時代、情報革命時代というものがありました。Google は、情報革命時代において最も成功した会社となりました。その特徴としては、すべての情報の透明性を高めたといったことがいえます。

感情革命、あるいはソーシャル革命ともいうべき、その流れは、今、始まったばかりです。1990 年以降に生まれた世代から、この流れは始まっています。昔は友人の数は最大でも 150 人くらいでしたが、双方向コミュニケーションができるツールのおかげで、今は何千、何万もの人と友達になることができます。そして感情やエンゲージメントを理解したり予測することができる能力も、同様に重要になってきています。もし、そのようなものに対する新たな検索技術や、ソーシャルな体験の拡張、また人間のコミュニケーションや興味、購買を理解する技術を得られれば、誰も次代の Google になるでしょう。Emotion Intelligence は、すでにそれへの 1 歩を踏み出しています。すでに概念化されたアイデアをメンバーで共有しています。

Emotion Intelligence の皆さん、未来の最先端にいること、本当におめでとうございます！

以上